

第2回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和57年3月3日（水）

午後2時～2時30分

2. 場 所 宇宙開発委員会会議室

3. 議 題 昭和56年度宇宙開発委員会外国技術者招へい
について

4. 資 料

委2-1 第1回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨（案）

委2-2 昭和56年度宇宙開発委員会外国技術者招へい
について（案）

委 2-1

第1回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨（案）

1. 日 時 昭和57年1月13日（水）
午後2時～2時40分
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 昭和57年度宇宙関係政府予算案について
4. 資 料

委1-1 第18回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨（案）

委1-2 昭和57年度宇宙関係政府予算案総括表

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

“ “

吉 識 雅 夫

斎 藤 成 文

井 上 啓次郎

大 塚 茂

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

“ 長官官房審議官

文部省学術国際局審議官

加 藤 泰 丸

辻 栄 一

大 崎 仁

（代理：横山）

通商産業省機械情報産業局次長

宮 本 治 男

（代理：古市）

運輸省気象庁総務部長

栗 山 昌 久

（代理：里見）

郵政省電波監理局審議官

高 橋 幸 男

（代理：木原）

建設大臣官房技術参事官

田 中 淳七郎

（代理：石原）

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 吉 村 晴 光

“ “ 宇宙国際課長 中津川 英 雄

“ “ 宇宙開発課長補佐 林 光 夫

他

6. 議 事

(1) 前回議事要旨の確認

第18回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨案（資料委1-1）が確認された。

(2) 昭和57年度宇宙関係政府予算案について

事務局より、資料委1-2に基づき説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

吉識：N-IIロケットの共通予備機である9号機の開発は認められなかったのか。

事務局：9号機の開発着手は認められなかったが、海洋観測衛星1号（MOS-1）打上げ用の7号機を3段式としても打ち上げられるように変更することにより、予備機が必要となる場合に備えることができることとなった。

吉識：N-IIロケット9号機の開発並びに第一次材料実験（FMPT）の実験システム及び地球資源衛星1号（ERS-1）の開発研究は認められなかったということであるが、その他についてはほぼ要求どおりとなっており、全体としては評価できる予算案になっていると考える。

昭和56年度宇宙開発委員会

外国技術者招へいについて(案)

昭和57年3月3日

宇宙開発委員会

決 定

昭和56年度における宇宙開発委員会外国技術者招へいとして、スウェーデン宇宙開発委員会委員長の J. Stiernstedt 氏を3月9日～3月17日の間、招へいすることとする。

(参考)

科学技術庁

昭和56年度宇宙開発委員会招へい日程

3月9日(火) 来日

10日(水) 事前打合せ

11日(木) 宇宙開発委員会、日本放送協会総合
技術研究所

12日(金) 文部省宇宙科学研究所、宇宙開発
事業団

15日(月) リモートセンシング技術センター、東京
芝浦電気(株)

16日(火) (株)日立製作所大みか工場

17日(水) 地球観測センター、離任日

略歴

J. シャーンステット

スウェーデン宇宙開発委員会委員長 (1972年
より在任)

1925年 スウェーデンに生る

1953年 ウフサラ大学卒

1959年 文部省入省

1963~69年 大学学術局長

1972年以降 宇宙開発委員会委員長

1964年以降 対 ESRO (欧州宇宙研究機構) / ESA (欧州宇宙機関)・スウェーデン政府代表団表

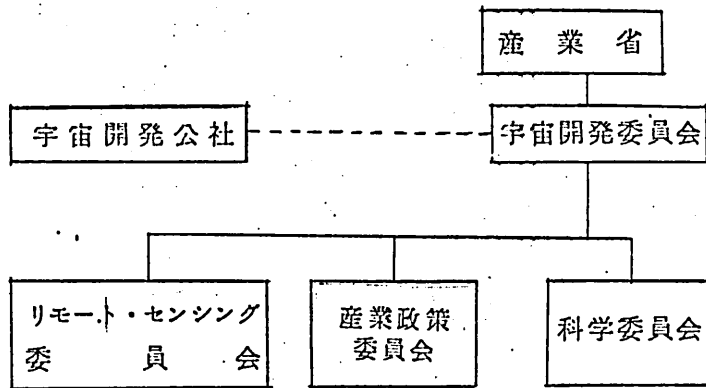
1969~72年 ESRO 副理事長

1975~78年 ESA 副理事長

1978~81年 ESA 理事長

スウェーデンの宇宙開発

1. 開発体制



スウェーデンの宇宙開発を担当している最高機関は産業省である。その下に直接の責任機関である宇宙開発委員会 (the Swedish Board for Space Activities) があり、企画立案にあたっている。また実施機関としてスウェーデン宇宙開発公社 (the Swedish Space Corporation) がある。

宇宙開発委員会は、産業省、産業界、学界等からの計8名の委員によって構成されている。

2. 宇宙開発予算

1981年度 233百万クロナ (約120億円)

3. 宇宙開発計画

(1) リモートセンシング

航空機リモートセンシングにより、公害監視、氷山監視等が行われている他、ESAのEarthnet計画の枠内で、Kiruna近郊のEsrange地上

局により、Landsat データの受信を行っている。(1978 春より運用開始) また、フランスの Spot 計画に参加し、搭載用小型コンピューター等を製作することになっている。

(2) 通 信

ESA の通信衛星計画 (ECS, L-Sat, MARECS) に参加しているほか、1976 年に開始したノルウェー、フィンランド等との共同直接放送衛星 (Nordsat) 計画及び実験用通信・放送衛星 (Tele-X) 計画を進めている。

(3) 科 学

磁気圏内等の観測を行う ESA の地球高層観測衛星 (GEOS-1, GEOS-2), ソ連の磁気圏観測衛星 Prognoz に搭載する機器を製作し、共同研究を行った。

その他 Sweden が極地に近いという地理的条件から極地方の研究を行う各国の計画に協力を行っている。

なお、スウェーデンの北部 Esrange (キルナの東北約 30 Km, 北緯約 70°) に観測ロケット、バルーン射場、研究施設が設けられ、オーロラの研究、北極地方の中間圏 (mesosphere) の研究、夜光雲 (noctilucent cloud) の研究等が行われている。また、西独、フランス、英国等が Esrange 基地を利用している。